

# ストラヴィンスキー ザ バレエ



Tokyo-HARUSAI Stravinsky vol.2  
Stravinsky The Ballet

“Apollon” by de Bana, “Le sacre du printemps” by Béjart  
ド・バナの《アポロ》、ベジャールの《春の祭典》



Patrick de Bana ©JAVIER GARCECHE / Maurice Béjart © Yoshihiro Kawaguchi / The Tokyo Ballet © Kiyonori Hasegawa

《アポロ》 “Apollon”

《春の祭典》 “Le sacre du printemps”

振付:パトリック・ド・バナ (新作)  
Choreography : Patrick de Bana  
音楽:ストラヴィンスキー (《ミューズを率いるアポロ》)  
Music : Stravinsky “Apollon musagète”  
ドラマトゥルク:ジャン=フランソワ・ヴァゼル  
Dramaturg : Jean-François Vazelle  
舞台美術:アラン・ラガルド  
Set Design : Alain Lagarde

照明:喜多村 貴  
Lighting Design : Takashi Kitamura  
衣裳:シュテファニー・ボイエレル  
Costume Design : Stephanie Bäuerle

アポロ:キリル・クルラーエフ (ウィーン国立バレエ団 プリンシパル)  
Apollo : Kirill Kourlaev  
ミューズ:マリア・ヤコヴレワ (ウィーン国立バレエ団 プリンシパル)  
Muse : Maria Yakovleva  
ニーナ・ポラコワ (ウィーン国立バレエ団 プリンシパル)  
Nina Poláková  
橋本清香 (ウィーン国立バレエ団)  
Kiyoka Hashimoto

アポロの母レト:アレーナ・クロシュコワ (ウィーン国立バレエ団)  
Mother of Apollo : Alena Klochkova

演奏:長岡京室内アンサンブル  
Nagaokakyo Chamber Ensemble in Kyoto

振付:モーリス・ベジャール  
Choreography : Maurice Béjart  
音楽:ストラヴィンスキー  
Music : Stravinsky

生贄:梅澤 紘貴  
Sacrifrice : Hiroki Umezawa  
奈良春夏  
Haruka Nara

東京バレエ団  
The Tokyo Ballet

演奏:東京都交響楽団  
Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra  
指揮:ジェームズ・ジャッド  
Conductor : James Judd

4/14 15:00 [日]

April 14 (Sun) 15:00

東京文化会館 大ホール  
Tokyo Bunka Kaikan Main Hall

S ¥10,000 A ¥8,000 B ¥6,000 C ¥5,000  
D ¥4,000 E ¥3,000 U-25 ¥2,000

※U-25チケットは東京春祭オンラインチケットサービスのみで取扱い

【主催】東京・春・音楽祭実行委員会 【協力】N&F Co., Ltd.Tokyo

東京春祭  
TOKYO OPERA NOMORI

東京・春・音楽祭 —東京のオペラの森2013—  
SPRING FESTIVAL IN TOKYO TOKYO OPERA NOMORI 2013

東京春祭で祝う《春の祭典》初演100周年。  
同時上演には、ベジャールの薫陶を受けた  
ド・バナの振付による《アポロ》新制作!

毎年様々な試みがなされる東京・春・音楽祭だが、今回は遂にバレエ上演にまで拡大! それもストラヴィンスキー畢生の——というよりも20世紀最大級の傑作《春の祭典》と、そこから15年を隔てて書かれた同じ作曲家による《ミューズを率いるアポロ》を一度に上演してしまおうという贅沢さである。

この2作はまさに対照的な作品で、作曲時期は《春の祭典》がストラヴィンスキーのキャリア最初期にあたる30代初頭、《ミューズを率いるアポロ》はその後の40代半ばであるし、オーケストラは100名を要する5管編成対34名の弦楽合奏(今回は17名で演奏)、ダンサーの数もかたやたくさんの群舞に、かたや僅か5名と甚だしく異なる。音楽面でも前者は狂乱するリズムとバーバリスティックなダイナミズムに溢れ、後者は艶やかな弦楽器のサウンドが活かされた新古典主義調……。このように徹底的に性格の違う作品を並べてあるので、両者の強烈なコントラストを楽しみながら、ストラヴィンスキーの作風の時代的な変化を味わえるというすぐれたプログラミングでもあるのだ。

振付は《春の祭典》がモーリス・ベジャール。担当するのはベジャールと密接な間柄にあった東京バレエ団ゆえ、作品への深い愛着と理解に基づいた感動的な舞台が約束されている。《アポロ》にはウィーン国立バレエ団のメンバーがフィーチャー。長年パリ・オペラ座のエトワールを務めたマニュエル・ルグリが芸術監督として日々磨きをかけているダンサーたちゆえ、優雅さと気品ある踊りが、作品の魅力を十全に届けてくれることだろう。通常《アポロ》はバランシンの振付で知られるが、今回はパトリック・ド・バナによる新作というのも期待したい。ド・バナは、80年代後半から90年代の初頭までベジャールのバレエ団で活動していたダンサーでもあるので、《春の祭典》での師ベジャールの美意識と見比べるのも興味深い。

音楽・バレエ・映画評論  
松本 學

《アポロ》

"Apollon"

パトリック・ド・バナ

Patrick de Bana

ハンブルク・バレエ学校で学ぶ。1987年、ベジャール・バレエ・ローザンヌに入団、まもなくプリンシパルに昇格する。92年、スペイン国立ダンスカンパニーに移籍、プリンシパルを10年以上務める。2003年、自らナファス・ダンス・カンパニーを創立。近年は振付家としても活躍、世界中のカンパニーやダンサーと多くの作品を生み出している。



©Iris Murakami

キリル・クルラーエフ

Kirill Kourlaev

ウィーン国立バレエ団 プリンシパル



マリア・ヤコヴレワ

Maria Yakovleva

ウィーン国立バレエ団 プリンシパル



ニーナ・ポラコワ

Nina Poláková

ウィーン国立バレエ団 プリンシパル



橋本清香

Kiyoka Hashimoto

ウィーン国立バレエ団



©Mitsuei Sasaki/intercal.com

アレーナ・クロシュコワ

Alena Klochkova

ウィーン国立バレエ団



《春の祭典》

"Le sacre du printemps"

モーリス・ベジャール

Maurice Béjart

20世紀のダンス界に革命をもたらした天才振付家。1927年マルセイユ生まれ。2007年に没するまで数多くの名作を生み出した。



©Yoshitomo Kawaguchi

東京バレエ団

The Tokyo Ballet

1964年の創立。古典作品から現代振付家の名作まで幅広いレパートリーを誇る。「日本の生んだ世界のバレエ団」として欧州の主要劇場にも多数出演している。

梅澤紘貴

Hiroki Umezawa

©Nobuhito Hara

奈良春夏

Haruka Nara



東京都交響楽団

Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

1965年、東京オリンピックの記念文化事業として東京都が設立。渡邊暁雄、若杉弘らのもと発展を遂げ、首都東京の音楽大使として多方面で活動している。

ジェームズ・ジャッド

James Judd

イギリス生まれ。フロリダ・フィルハーモニー管弦楽団、ニューヨークランド交響楽団、リール国立管弦楽団等の主要ポストを歴任。レコーディングも多い。

長岡京室内アンサンブル

Nagaokakyo Chamber Ensemble in Kyoto

森悠子を音楽監督として国内外から優秀な若手演奏家を集め、1997年に結成。指揮に頼らない独自の演奏スタイルと高度な表現法と音楽性の高さは希有な存在として高く評価されている。

\*記載の配役は2月25日現在の予定です。※当初出演を予定しておりましたナタリー・フッシュは、本人の都合により出演できなくなりました。

東京・春・音楽祭

-東京のオペラの森2013-

3.15 Fri. - 4.14 Sun.

<http://www.tokyo-harusai.com/>

入門編から上級編まで読みごたえのあるコラムを掲載中の「春祭ジャーナル」ほか、「Facebook」「Twitter」など、多彩なコンテンツをご用意。

春が訪れ  
桜がひらいて  
音楽が始まる  
上野の森に

東京の春の訪れを、音楽を媒介としたお祭りです。

明治以来、日本における文化・芸術の集積地として発展を続けてきた上野公園を舞台に、桜の美しい時期に1ヵ月にわたり開催する音楽祭です。東京文化会館での「ワーグナー・シリーズ」や、国内外の一流アーティストによる公演をはじめ、美術館・博物館を会場とした「ミュージアム・コンサート」、無料の小さなコンサート「桜の街の音楽会」など、約100公演を開催いたします。桜が咲きほころぶ春のひとつに、上野のあらゆる場所から、色とりどりの音楽が聴こえてくる——そんな「東京・春・音楽祭 -東京のオペラの森2013-」が東京-上野の春を美しく彩ります。

チケットのお申込み

東京春祭オンライン・チケットサービス

<http://www.tokyo-harusai.com/>

(座席選択可)

公式HPだからこそ  
嬉しいサービス  
たくさん!

チケットレスで  
ご入場



チケットれすQ

チケットをメールで受信。またはご自宅へ印刷。コンビニでチケットを受け取る。手間を省き、さらに手数料もらぶとお得です。

3人そろって  
5%OFF



トリオ・チケット

3名でご来場の場合、チケット代を5%割引  
※席数限定・同日1公演につき、同席種を3枚購入の場合のみ。



※東京春祭オンライン・チケットサービスのご利用はご登録が必要です(無料)。公式ホームページ内「チケット」ページにて、詳細をご確認ください。※「チケットれすQ」「トリオ・チケット」は対象席種限定のサービスです。※車椅子席、団体での鑑賞等詳しくは下記までお問合せください。※未就学児のご入場はご遠慮いただいております。※やむを得ぬ事情により、内容に変更が生じる可能性があります。出演者・曲目変更による払戻しはいたしませんので、あらかじめご了承ください。

公演に関するお問合せ 東京・春・音楽祭実行委員会 03-3296-0600

お電話でのお申込みは

03-5685-0650

東京文化会館チケットサービス

会館内チケット売場でも購入できます

その他プレイガイド

チケットぴあ <http://pia.jp/t/harusai/>  
0570-02-9999 (音声自動応答)  
☎597-880

ローソンチケット <http://l-tike.com/>  
0570-000-407 (オペレーター)  
0570-084-003 (音声自動応答)  
☎34278

e+ (イープラス) <http://eplus.jp/harusai/>  
都響ガイド 03-3822-0727

2013年12月 撮影 大塚 健夫

ANTONIO VIVALDI  
四季  
THE FOUR SEASONS

林光、新藤兼人追悼  
裸の島 & 四季  
長岡京室内アンサンブル

林光は新藤監督と生涯に34作品の映画音楽を共にした。「裸の島」(1960年)はその第2作。第2回モスクワ映画祭作曲賞受賞

1970年代初頭のバリで、新藤監督の「裸の島」を見て涙した。台詞がひと言もなく、瀬戸内海のやせた孤島を開墾する夫婦と2人の子供たちの物語。背景のメロディが映像と共に心に深く焼きついた。いつの日か、弦楽合奏で演奏したいとの強い思いが、時を経て林光先生自らの編曲で叶った。

長岡京室内アンサンブル音楽監督 森悠子

東京・春・音楽祭  
長岡京室内アンサンブル共同委嘱作品  
2011年4月 初演 録音

林光 3つの映画音楽  
1 裸の島のテーマ「裸の島」より(新藤兼人監督)  
2 下克上の歌「真田風雲録」より(加藤泰監督)  
3 ラストシーン「新子の死」  
「秋津温泉」より(吉田喜重監督)

ヴィヴァルディ 四季  
ソロウ・イオリ、  
谷本幸子、高木和弘、青谷友香里、館野ヤンネ  
CD: MF20106 定価: 3,000円(税込)

録音制作: R&G Co., Ltd. Tokyo  
販売元: ユニバーサルミュージック合同会社 I M S